

# 批評と紹介

ナジヤーン氏「佛教梵語文法・辭典」「佛教梵語讀本」

## 廿 直 四 郎

Franklin Edgerton : Buddhist Hybrid Sanskrit Grammar and Dictionary. (William Dwight Whitney Linguistic Series.) Volume I: Gram-

mar, 4°, XXIII, 239 pp., Volume II: Dictionary, 4°, 627 pp., New Haven : Yale University Press, 1953.

do. : Buddhist Hybrid Sanskrit Reader.

(William Dwight Whitney Linguistic Series.) 8°, IX, 76 pp., New Haven : Yale University Press, 1953.

佛教の經典を翻訳したイハニ語の中、梵語あるべ一

ナジヤーン氏「佛教梵語文法・辭典」「佛教梵語讀本」

リ語は廣く知られ、その文典・辭書も備へてある。こねゆる  
プラークリット・ダルマペダ (Ms. Dutreuil de Rhins) に見  
られる中期印地語の一種も、かつて佛教聖典に用ひられた  
言語の一つを代表するが、その資料は限られ、その方言的地位  
置などに特徴も研究されてゐる。しかしこのほか一群の佛  
典に使用されてゐる言語は、程度の差こそあれ、正規の梵語  
の標準に合わない音形・語形を示し、特殊の語彙を含み、從  
來漢然と混淆梵語或いは佛教梵語等の名によつて呼ばれて  
いた。ナジヤーン教授がこゝにその本質を明らかにし、文法  
を整理し、辭書を編み、將來の研究に確乎たる基礎を與えた  
のが、正じいのブライスト・ハイブリッド・サンスクリット  
(BHS, 以下略して佛教梵語と呼ぶ) である。

第一部文典の序論によると、著者はまず原始佛教の言語問題に關れ、佛陀在世當時から各種の地方的方言の使用が許されたことを認められてゐる (I · ヤ——III)。既に提唱された種々の學説 (S. Levi, Lüders, Hian-jin Dschi) を検討を加えた結果、佛教の聖典語は本來一種に限られたものではなく、  
佛教宣傳の重要な中心となつた諸地において、それぞれその  
地方の方言を基礎とした言語による聖典が、次第に成立した  
といふ見解 (Lin Likouang) を採り、佛教梵語もまたかかる  
言語の一種であつたと斷定してゐる。ペーリ語におけると同

様、この種の言語に當初から方言混淆のあつたことは、もちろん容易に了解される（一・一四一一三一）。

著者は佛教梵語或いはその傳承の主要部分の基盤となつたブラークリット語を、東インドの方言に求めようとする見解には賛成しない。混亂状態を示すかに見える佛教梵語も、その共通する特徴を精密に分析すれば、ペーリ語におけると同様、本來その基底に方言的統一性をもつたものと考えられる。

若干の共通點を示しながらも、その文法上の形態はペーリ語と異り、アルダ・マーガディー語とも特別の親近性をもたず、アバランシャ語よりは概して古い段階に屬し、從來知られている中期インド語の何れの一つとも特に密接な關係をもつていかない。従つて佛教梵語は、その言語的特徴によつて、獨立のブラークリット語を形成するといえるのみで、その基礎となつた方言を地理的に規定することはできない（一・七八一一〇五）。

現存する佛教梵語の最古の作品は、恐らく西紀前一世紀以上にさかのぼるものと思われるが、その傳承の最もいちじるしい特徴は、時と共に進んだ梵語化（Sanskritization）の傾向である。しかし全篇を完全に梵語に翻譯するには至らず、古い作品ほど、その言語の基礎が中期インド語にあつたことを反映している。梵語化の結果として、正規形と中期インド

語形とは、相並んで用いられ、しばしば兩者の何れでもない混種をはじめる。この状態において佛教梵語が、眞の日常語として使用されたとは想像できず、ただ宗教上の目的に役立つたものと認められる（一・三三一一三五）。

梵語化の範囲・程度は時代によつて大きな差があり、同一書の中においても、部分によつて異なることがある。この言語的事實を規準として、佛教梵語の作品を分類することができると、これはあくまで梵語化の過程を経た現存の形についていうことで、原典自身が最初に成立した年代とは必ずしも一致しない。この言語的見地から、著者は佛教梵語の作品を次の三類に大別し、傳承から見た年代の順序とほぼ並行するものとしている。

一、韻文のみならず散文の部分も、佛教梵語の特徴を示し、表され、他の少量の断片がこれに属する。

二、韻文は第一類と同様に佛教梵語の特徴を示すが、散文は比較的少數の中期インド語的特徴を含むもの。ただし語彙により、散文の部分もまた佛教梵語的であることが知られる。例えば、サッダルマ・パンダリーカ、ラリタ・ヴィスター、ガングダ・ヴィユーハ等。

三、韻文においても散文と同様に梵語化が進んだもの。言

語的に見て全體が、第二類の散文に似ている。従つて韻文を含まぬ作品にあつては、第二類に屬するものとしても差支えない。例えば、ムーラ・サルヴァースティヴィード・ヴィナヤ、ディヴィヤ・アヴァダーナ、アヴァダーナ・シャタカ等。第二類の散文および第三類に屬する作品の或るものは、單に音形・語形から見れば、正規の梵語と殆ど區別できず、且つ韻文の部分についても、寫本および出版本は、しばしば梵語の外衣を被らせてゐるため、韻律を指針として詳細に検討しなくては、その背後にひそむ中期インド語的發音を發見できない場合がある。從來これ等の作品或いはその部分の言語を、正規の梵語と嚴密に區別せず、梵語の一種とみなして怪しまなかつた。但しこの場合においても、一定の作品が佛教梵語の傳統に屬するか否かを示す最も明瞭な證據は、專問語のみならず普通語における特有の語彙である。この故にこそ、馬鳴の作品は、若干の要素を除き、正規の梵語で書かれたものと認められ、ジャータカ・マーラーは第三類に屬せしめるれる(1・三六——三八, cf. Preface pp. XXV—XXVII)。

著者に従えば、佛教梵語は正規の梵語と異る言語的傳統を擔うもので、後者を扱う文典・辭書から除外されなければならぬ(1・七六——七七)。

じこで著者は、傳承の過程において梵語化が如何に増進し

たかを、具體的事例について説明し(1・三九——四九)、最後にその論證の結果を、七項に分けて要約している(1・五〇——五六)。(+) 佛教梵語の傳承は概して、或る初期の佛教聖典乃至聖典類似のものから出發し、或いはこれにさかのぼる。そしてこれは、梵語ではなく、恐らく既に方言混淆を含んだ一種の中期インド語で書かれたものである。(+) (+) 梵語化の程度は、作品の新古の層或いは部分を、言語的に判別する標準となる。例えば、同一の物語に關する並行個所を比較し得るとき、梵語化されない音形・語形・語彙は、これに相應する梵語化されたものより、常に本初の姿に近い。梵語化は時と共に進んだが、佛教梵語の傳統は、數世紀にわたり、少くとも北インドの佛教徒の間に宗教語として續き、語彙の中に消すことのできない證跡を残していく。また梵語的外觀にもかかわらず、韻律が本來の中期インド語的發音を指示することがあり、たといの確證はなくとも、少くも初期において、散文もまた韻文と同様に發音されたものと想像される。

本書はプラークリット語の一種と見なされる佛教梵語の文典と辭書とであるから、その對象の範圍を正確に限定していく必要がある。著者は兩部に含まれる資料の範圍および著述の方法について詳しく説明し、その意のあるところを明らかにしていく(1・五七——七五, cf. Preface p. XXI; 1-1

○六一一一一。在來の不完全な出版本に立脚して、これを批判的に處理した用意を窺うに足りるが、ここにはただ基本的輪郭を要約するにとどめる。すなわち原則として、正規の梵語形および梵語においても同一意義をもつ單語は、すべて除外される。その結果、*nirvāṇa* は除外されるが、*parinirvāṇa* は含まれる。いいかえれば、著者の意圖したところは、正規の梵語に屬しない要素——文法的にしろ、語彙的にしろ——を蒐集し、分類し、解明するにある。

文典の主體は、音論(一)、三三)、サンディ(四)、數(五)、性(六)、格(七)、名詞の各語幹の變化(八——一八)、數詞(一九)、代名詞(二〇)、二一)、名詞の接尾辭(二二)、複合詞(二三)、動詞の變化、動名詞(二四——四〇)、as および bhū の特殊用法(四一)、mā の構文(四二)に分れ、各章は多數の節に細分され、佛教梵語に特有な動詞形の一覽表(四三)をもつて終つてゐる。この内容豊富な文典に索引を缺いてゐるのは、卷頭の詳細な内容目次(pp. IX-XIX)ならびに上記の動詞形一覽表、更に第二部辭典が、實質的に索引の代用をなすからで、同時に紙數の膨脹を避けるためであつたといふ (cf. pp. XXI-XXII)。

正規の梵語に慣れている者から見れば、佛教梵語は甚だしい紛亂を呈し、文法組織は全體として崩潰の兆を示すかと思

われる。すべてのラークリット語と同じく、強く單純化の方向に進みつつ、音形上の變化は形態を曖昧にし、縦横に交錯する類推は新しい文法形を生み、韻律の制約は母音の延長或いは短縮を餘儀なくさせて副次形を増し、これ等の結果は文法組織に對する觀念を弛め、次第に全般的崩潰へ向つて進行する。單純化的傾向は過渡的にかえつて複雑な様相を現わし、現存の寫本および出版本によつて知られる佛教梵語は、拾收困難な状態を示している。しかも從來の校訂者は、依るべき基準がないままに、佛教梵語の本質を見失い、しばしばかえつて梵語化の方向に訂正するという過誤を犯した。良心的な校訂者の提供する寫本の読み方を批判的に吟味し、並行個所および韻律の要求を検討して、厖大な資料を分類整理し、同一機能をもつ數種の文法形、逆に數種の機能をもつ同一形に、それぞれ正當な位置を與えて、迷路に光明を投じた著者の功績は、佛教梵語の研究に一時代を劃したものと確信する。

しかし創見に満ちたこの文典の内容を列舉することは、書評の範圍においてなし得るところではない。ここにはただ一例を名詞の a 語幹、男性・單數・主格にとり、その要領を摘記するにとどめる。a 語幹は他の多くの語幹からの移轉語を吸収しており、用例も豊富であるから、佛教梵語の傾向を窺い、且つ本文典の内容の一斑を傳え得ると考えたからである。こ

の一例について見ても、11種の格或いは數に屬する語尾の混用があり、また本來或る性に屬する格語尾が、他の性の名詞に轉用されるのを知ることができる。

-o (八・一八——一九)。梵語において許された位置以外にも用いられ、大部分の原典では韻文に限られているが、マヘー・ヴァストゥ (Mv) においては散文にも非常に普通。

-u (八・一〇〇)。前記-o の短縮形 (metri causa)。大部分の原典に極めて普通。但し韻文に限られる。Mv には稀で、散文には使用されない。

-ī (八・一一一)。前記-u の延長形 (m. c.)。

-ā (八・一一一——一三一)。-ī より更に普通。殆ど全く韻文に限られる (m. c.)。Mv もえ殆ど韻文に限つて用ひ、この場合でも非常に普通とはいえない。

-ā (八・一四)。前記-a の延長形 (m. c.)。韻文に用ひられるが、Mv の散文 (mss.) には數回の用例が認められる。但し複數・主格形 (八・七八) との混同 (逆に單數・主格形 -ah, -ō が複數に用ひられこと (八・八三) を參照)、或いは女性・單數・主格形の轉用 (逆に男性・中性・單數・主格形 -u が女性・單數・主格に用ひられること (九・一三) を參照) が考へられる。

e (八・一〇五)。出版本に現れたところでは稀であるが、

Mv の寫本によれば多數の用例が認められる。しばしば問題とされるこの語尾の分布については、一・三二 脚註一 参照。

-ān (八・一六)。中性・單數・主格・目的格形、または男姓・單數・目的格、或いは兩者からの轉用 (六・六 參照)。複數・主格において -āni が男性に (八・八六)、-ā, (-āh?) が中性に (八・一〇〇) 用ひられるることを參照。名詞の性の轉換とも見られるが、むしろ文法上の性の形態的區別が崩潰する傾向を豫告する例證と考えられる (六・一一四 參照)。

第一部辭書の含む語彙の範囲については既に述べた。正規の梵語と共に通する單語および意義を除外して、在來の梵語辭書 (特に PW, pw) の併用を豫定したことは、この辭書のみによつて、佛教梵語の原典を理解しようとする者には不便であるが、他面において、佛教梵語特有の語彙の範囲を明確にし、その差異を判然とさせた點において、却つて今後の研究に絶大の便益を與えている。各語の項下には、これに相應する梵語・ペーリ語の單語が添えられ、もしこれを缺くときには、アルダ・マーガディー等の中期インド語形が挙げられてくる。既知の中期インド語の何れにも對應をもたない單語も存在し、佛教梵語がその文法においてのみならず、語彙においても、獨自の體系を備えた一言語組織であつたことが知られる (一・一一一 參照)。

本書は著者の二十年に亘る研究の結晶であり、佛教梵語の最初の學術的文典と辭書である。過去一世紀の間にインド學は、不朽の勞作、至便の参考書の出現により、新生面を開してきたが、本書もその最も美しい金字塔の一つとして、今後長く全世界のインド語學者、佛教學者の必備書となり、感謝の的となることは疑いはない。從來等閑に附されがちであった領野を開拓し、文典の各行、辭書の各項が、周到な注意と批判的精神とを反映してゐることを思えば、二十年の歳月はむしろ短きに過ぎ、著者の異常な努力と學殖とを示すものである。専門の分野を異にする筆者には、到底本書を批評する資格がない。しかし一九三六年(BSOS VIII, pp. 501~516, HIAS I, pp. 65~83, Kuppuswami-Volume, pp. 39~45)以来、諸所に發表された論文を通じ、H. J. Yádava教授の方面における研究に、多大の興味と尊敬とをもつた一人として、且つまた佛典の研究に専念する日本のインド學界に、一刻も早く本書を紹介したいため、紙面を借用したに過ぎない。

文典は細字一欄組みであるため、やや読みにくく嫌いがあるが、鮮明な印刷と檢索に便利な章節の區分とは、これを補つてゐる。敘述は簡明であると同時に懇切、歴史的説明は現實に即して穩健で、無理な假説に陥らないから追隨し易い。本書の出現により、從來の出版本は寫本の読み方に還つて訛正用してよい。<sup>1</sup> <sup>2</sup> <sup>3</sup> <sup>4</sup> <sup>5</sup> <sup>6</sup> <sup>7</sup> <sup>8</sup> <sup>9</sup> <sup>10</sup> <sup>11</sup> <sup>12</sup> <sup>13</sup> <sup>14</sup> <sup>15</sup> <sup>16</sup> <sup>17</sup> <sup>18</sup> <sup>19</sup> <sup>20</sup> <sup>21</sup> <sup>22</sup> <sup>23</sup> <sup>24</sup> <sup>25</sup> <sup>26</sup> <sup>27</sup> <sup>28</sup> <sup>29</sup> <sup>30</sup> <sup>31</sup> <sup>32</sup> <sup>33</sup> <sup>34</sup> <sup>35</sup> <sup>36</sup> <sup>37</sup> <sup>38</sup> <sup>39</sup> <sup>40</sup> <sup>41</sup> <sup>42</sup> <sup>43</sup> <sup>44</sup> <sup>45</sup> <sup>46</sup> <sup>47</sup> <sup>48</sup> <sup>49</sup> <sup>50</sup> <sup>51</sup> <sup>52</sup> <sup>53</sup> <sup>54</sup> <sup>55</sup> <sup>56</sup> <sup>57</sup> <sup>58</sup> <sup>59</sup> <sup>60</sup> <sup>61</sup> <sup>62</sup> <sup>63</sup> <sup>64</sup> <sup>65</sup> <sup>66</sup> <sup>67</sup> <sup>68</sup> <sup>69</sup> <sup>70</sup> <sup>71</sup> <sup>72</sup> <sup>73</sup> <sup>74</sup> <sup>75</sup> <sup>76</sup> <sup>77</sup> <sup>78</sup> <sup>79</sup> <sup>80</sup> <sup>81</sup> <sup>82</sup> <sup>83</sup> <sup>84</sup> <sup>85</sup> <sup>86</sup> <sup>87</sup> <sup>88</sup> <sup>89</sup> <sup>90</sup> <sup>91</sup> <sup>92</sup> <sup>93</sup> <sup>94</sup> <sup>95</sup> <sup>96</sup> <sup>97</sup> <sup>98</sup> <sup>99</sup> <sup>100</sup> <sup>101</sup> <sup>102</sup> <sup>103</sup> <sup>104</sup> <sup>105</sup> <sup>106</sup> <sup>107</sup> <sup>108</sup> <sup>109</sup> <sup>110</sup> <sup>111</sup> <sup>112</sup> <sup>113</sup> <sup>114</sup> <sup>115</sup> <sup>116</sup> <sup>117</sup> <sup>118</sup> <sup>119</sup> <sup>120</sup> <sup>121</sup> <sup>122</sup> <sup>123</sup> <sup>124</sup> <sup>125</sup> <sup>126</sup> <sup>127</sup> <sup>128</sup> <sup>129</sup> <sup>130</sup> <sup>131</sup> <sup>132</sup> <sup>133</sup> <sup>134</sup> <sup>135</sup> <sup>136</sup> <sup>137</sup> <sup>138</sup> <sup>139</sup> <sup>140</sup> <sup>141</sup> <sup>142</sup> <sup>143</sup> <sup>144</sup> <sup>145</sup> <sup>146</sup> <sup>147</sup> <sup>148</sup> <sup>149</sup> <sup>150</sup> <sup>151</sup> <sup>152</sup> <sup>153</sup> <sup>154</sup> <sup>155</sup> <sup>156</sup> <sup>157</sup> <sup>158</sup> <sup>159</sup> <sup>160</sup> <sup>161</sup> <sup>162</sup> <sup>163</sup> <sup>164</sup> <sup>165</sup> <sup>166</sup> <sup>167</sup> <sup>168</sup> <sup>169</sup> <sup>170</sup> <sup>171</sup> <sup>172</sup> <sup>173</sup> <sup>174</sup> <sup>175</sup> <sup>176</sup> <sup>177</sup> <sup>178</sup> <sup>179</sup> <sup>180</sup> <sup>181</sup> <sup>182</sup> <sup>183</sup> <sup>184</sup> <sup>185</sup> <sup>186</sup> <sup>187</sup> <sup>188</sup> <sup>189</sup> <sup>190</sup> <sup>191</sup> <sup>192</sup> <sup>193</sup> <sup>194</sup> <sup>195</sup> <sup>196</sup> <sup>197</sup> <sup>198</sup> <sup>199</sup> <sup>200</sup> <sup>201</sup> <sup>202</sup> <sup>203</sup> <sup>204</sup> <sup>205</sup> <sup>206</sup> <sup>207</sup> <sup>208</sup> <sup>209</sup> <sup>210</sup> <sup>211</sup> <sup>212</sup> <sup>213</sup> <sup>214</sup> <sup>215</sup> <sup>216</sup> <sup>217</sup> <sup>218</sup> <sup>219</sup> <sup>220</sup> <sup>221</sup> <sup>222</sup> <sup>223</sup> <sup>224</sup> <sup>225</sup> <sup>226</sup> <sup>227</sup> <sup>228</sup> <sup>229</sup> <sup>230</sup> <sup>231</sup> <sup>232</sup> <sup>233</sup> <sup>234</sup> <sup>235</sup> <sup>236</sup> <sup>237</sup> <sup>238</sup> <sup>239</sup> <sup>240</sup> <sup>241</sup> <sup>242</sup> <sup>243</sup> <sup>244</sup> <sup>245</sup> <sup>246</sup> <sup>247</sup> <sup>248</sup> <sup>249</sup> <sup>250</sup> <sup>251</sup> <sup>252</sup> <sup>253</sup> <sup>254</sup> <sup>255</sup> <sup>256</sup> <sup>257</sup> <sup>258</sup> <sup>259</sup> <sup>260</sup> <sup>261</sup> <sup>262</sup> <sup>263</sup> <sup>264</sup> <sup>265</sup> <sup>266</sup> <sup>267</sup> <sup>268</sup> <sup>269</sup> <sup>270</sup> <sup>271</sup> <sup>272</sup> <sup>273</sup> <sup>274</sup> <sup>275</sup> <sup>276</sup> <sup>277</sup> <sup>278</sup> <sup>279</sup> <sup>280</sup> <sup>281</sup> <sup>282</sup> <sup>283</sup> <sup>284</sup> <sup>285</sup> <sup>286</sup> <sup>287</sup> <sup>288</sup> <sup>289</sup> <sup>290</sup> <sup>291</sup> <sup>292</sup> <sup>293</sup> <sup>294</sup> <sup>295</sup> <sup>296</sup> <sup>297</sup> <sup>298</sup> <sup>299</sup> <sup>300</sup> <sup>301</sup> <sup>302</sup> <sup>303</sup> <sup>304</sup> <sup>305</sup> <sup>306</sup> <sup>307</sup> <sup>308</sup> <sup>309</sup> <sup>310</sup> <sup>311</sup> <sup>312</sup> <sup>313</sup> <sup>314</sup> <sup>315</sup> <sup>316</sup> <sup>317</sup> <sup>318</sup> <sup>319</sup> <sup>320</sup> <sup>321</sup> <sup>322</sup> <sup>323</sup> <sup>324</sup> <sup>325</sup> <sup>326</sup> <sup>327</sup> <sup>328</sup> <sup>329</sup> <sup>330</sup> <sup>331</sup> <sup>332</sup> <sup>333</sup> <sup>334</sup> <sup>335</sup> <sup>336</sup> <sup>337</sup> <sup>338</sup> <sup>339</sup> <sup>340</sup> <sup>341</sup> <sup>342</sup> <sup>343</sup> <sup>344</sup> <sup>345</sup> <sup>346</sup> <sup>347</sup> <sup>348</sup> <sup>349</sup> <sup>350</sup> <sup>351</sup> <sup>352</sup> <sup>353</sup> <sup>354</sup> <sup>355</sup> <sup>356</sup> <sup>357</sup> <sup>358</sup> <sup>359</sup> <sup>360</sup> <sup>361</sup> <sup>362</sup> <sup>363</sup> <sup>364</sup> <sup>365</sup> <sup>366</sup> <sup>367</sup> <sup>368</sup> <sup>369</sup> <sup>370</sup> <sup>371</sup> <sup>372</sup> <sup>373</sup> <sup>374</sup> <sup>375</sup> <sup>376</sup> <sup>377</sup> <sup>378</sup> <sup>379</sup> <sup>380</sup> <sup>381</sup> <sup>382</sup> <sup>383</sup> <sup>384</sup> <sup>385</sup> <sup>386</sup> <sup>387</sup> <sup>388</sup> <sup>389</sup> <sup>390</sup> <sup>391</sup> <sup>392</sup> <sup>393</sup> <sup>394</sup> <sup>395</sup> <sup>396</sup> <sup>397</sup> <sup>398</sup> <sup>399</sup> <sup>400</sup> <sup>401</sup> <sup>402</sup> <sup>403</sup> <sup>404</sup> <sup>405</sup> <sup>406</sup> <sup>407</sup> <sup>408</sup> <sup>409</sup> <sup>410</sup> <sup>411</sup> <sup>412</sup> <sup>413</sup> <sup>414</sup> <sup>415</sup> <sup>416</sup> <sup>417</sup> <sup>418</sup> <sup>419</sup> <sup>420</sup> <sup>421</sup> <sup>422</sup> <sup>423</sup> <sup>424</sup> <sup>425</sup> <sup>426</sup> <sup>427</sup> <sup>428</sup> <sup>429</sup> <sup>430</sup> <sup>431</sup> <sup>432</sup> <sup>433</sup> <sup>434</sup> <sup>435</sup> <sup>436</sup> <sup>437</sup> <sup>438</sup> <sup>439</sup> <sup>440</sup> <sup>441</sup> <sup>442</sup> <sup>443</sup> <sup>444</sup> <sup>445</sup> <sup>446</sup> <sup>447</sup> <sup>448</sup> <sup>449</sup> <sup>450</sup> <sup>451</sup> <sup>452</sup> <sup>453</sup> <sup>454</sup> <sup>455</sup> <sup>456</sup> <sup>457</sup> <sup>458</sup> <sup>459</sup> <sup>460</sup> <sup>461</sup> <sup>462</sup> <sup>463</sup> <sup>464</sup> <sup>465</sup> <sup>466</sup> <sup>467</sup> <sup>468</sup> <sup>469</sup> <sup>470</sup> <sup>471</sup> <sup>472</sup> <sup>473</sup> <sup>474</sup> <sup>475</sup> <sup>476</sup> <sup>477</sup> <sup>478</sup> <sup>479</sup> <sup>480</sup> <sup>481</sup> <sup>482</sup> <sup>483</sup> <sup>484</sup> <sup>485</sup> <sup>486</sup> <sup>487</sup> <sup>488</sup> <sup>489</sup> <sup>490</sup> <sup>491</sup> <sup>492</sup> <sup>493</sup> <sup>494</sup> <sup>495</sup> <sup>496</sup> <sup>497</sup> <sup>498</sup> <sup>499</sup> <sup>500</sup> <sup>501</sup> <sup>502</sup> <sup>503</sup> <sup>504</sup> <sup>505</sup> <sup>506</sup> <sup>507</sup> <sup>508</sup> <sup>509</sup> <sup>510</sup> <sup>511</sup> <sup>512</sup> <sup>513</sup> <sup>514</sup> <sup>515</sup> <sup>516</sup> <sup>517</sup> <sup>518</sup> <sup>519</sup> <sup>520</sup> <sup>521</sup> <sup>522</sup> <sup>523</sup> <sup>524</sup> <sup>525</sup> <sup>526</sup> <sup>527</sup> <sup>528</sup> <sup>529</sup> <sup>530</sup> <sup>531</sup> <sup>532</sup> <sup>533</sup> <sup>534</sup> <sup>535</sup> <sup>536</sup> <sup>537</sup> <sup>538</sup> <sup>539</sup> <sup>540</sup> <sup>541</sup> <sup>542</sup> <sup>543</sup> <sup>544</sup> <sup>545</sup> <sup>546</sup> <sup>547</sup> <sup>548</sup> <sup>549</sup> <sup>550</sup> <sup>551</sup> <sup>552</sup> <sup>553</sup> <sup>554</sup> <sup>555</sup> <sup>556</sup> <sup>557</sup> <sup>558</sup> <sup>559</sup> <sup>560</sup> <sup>561</sup> <sup>562</sup> <sup>563</sup> <sup>564</sup> <sup>565</sup> <sup>566</sup> <sup>567</sup> <sup>568</sup> <sup>569</sup> <sup>570</sup> <sup>571</sup> <sup>572</sup> <sup>573</sup> <sup>574</sup> <sup>575</sup> <sup>576</sup> <sup>577</sup> <sup>578</sup> <sup>579</sup> <sup>580</sup> <sup>581</sup> <sup>582</sup> <sup>583</sup> <sup>584</sup> <sup>585</sup> <sup>586</sup> <sup>587</sup> <sup>588</sup> <sup>589</sup> <sup>590</sup> <sup>591</sup> <sup>592</sup> <sup>593</sup> <sup>594</sup> <sup>595</sup> <sup>596</sup> <sup>597</sup> <sup>598</sup> <sup>599</sup> <sup>600</sup> <sup>601</sup> <sup>602</sup> <sup>603</sup> <sup>604</sup> <sup>605</sup> <sup>606</sup> <sup>607</sup> <sup>608</sup> <sup>609</sup> <sup>610</sup> <sup>611</sup> <sup>612</sup> <sup>613</sup> <sup>614</sup> <sup>615</sup> <sup>616</sup> <sup>617</sup> <sup>618</sup> <sup>619</sup> <sup>620</sup> <sup>621</sup> <sup>622</sup> <sup>623</sup> <sup>624</sup> <sup>625</sup> <sup>626</sup> <sup>627</sup> <sup>628</sup> <sup>629</sup> <sup>630</sup> <sup>631</sup> <sup>632</sup> <sup>633</sup> <sup>634</sup> <sup>635</sup> <sup>636</sup> <sup>637</sup> <sup>638</sup> <sup>639</sup> <sup>640</sup> <sup>641</sup> <sup>642</sup> <sup>643</sup> <sup>644</sup> <sup>645</sup> <sup>646</sup> <sup>647</sup> <sup>648</sup> <sup>649</sup> <sup>650</sup> <sup>651</sup> <sup>652</sup> <sup>653</sup> <sup>654</sup> <sup>655</sup> <sup>656</sup> <sup>657</sup> <sup>658</sup> <sup>659</sup> <sup>660</sup> <sup>661</sup> <sup>662</sup> <sup>663</sup> <sup>664</sup> <sup>665</sup> <sup>666</sup> <sup>667</sup> <sup>668</sup> <sup>669</sup> <sup>670</sup> <sup>671</sup> <sup>672</sup> <sup>673</sup> <sup>674</sup> <sup>675</sup> <sup>676</sup> <sup>677</sup> <sup>678</sup> <sup>679</sup> <sup>680</sup> <sup>681</sup> <sup>682</sup> <sup>683</sup> <sup>684</sup> <sup>685</sup> <sup>686</sup> <sup>687</sup> <sup>688</sup> <sup>689</sup> <sup>690</sup> <sup>691</sup> <sup>692</sup> <sup>693</sup> <sup>694</sup> <sup>695</sup> <sup>696</sup> <sup>697</sup> <sup>698</sup> <sup>699</sup> <sup>700</sup> <sup>701</sup> <sup>702</sup> <sup>703</sup> <sup>704</sup> <sup>705</sup> <sup>706</sup> <sup>707</sup> <sup>708</sup> <sup>709</sup> <sup>710</sup> <sup>711</sup> <sup>712</sup> <sup>713</sup> <sup>714</sup> <sup>715</sup> <sup>716</sup> <sup>717</sup> <sup>718</sup> <sup>719</sup> <sup>720</sup> <sup>721</sup> <sup>722</sup> <sup>723</sup> <sup>724</sup> <sup>725</sup> <sup>726</sup> <sup>727</sup> <sup>728</sup> <sup>729</sup> <sup>730</sup> <sup>731</sup> <sup>732</sup> <sup>733</sup> <sup>734</sup> <sup>735</sup> <sup>736</sup> <sup>737</sup> <sup>738</sup> <sup>739</sup> <sup>740</sup> <sup>741</sup> <sup>742</sup> <sup>743</sup> <sup>744</sup> <sup>745</sup> <sup>746</sup> <sup>747</sup> <sup>748</sup> <sup>749</sup> <sup>750</sup> <sup>751</sup> <sup>752</sup> <sup>753</sup> <sup>754</sup> <sup>755</sup> <sup>756</sup> <sup>757</sup> <sup>758</sup> <sup>759</sup> <sup>760</sup> <sup>761</sup> <sup>762</sup> <sup>763</sup> <sup>764</sup> <sup>765</sup> <sup>766</sup> <sup>767</sup> <sup>768</sup> <sup>769</sup> <sup>770</sup> <sup>771</sup> <sup>772</sup> <sup>773</sup> <sup>774</sup> <sup>775</sup> <sup>776</sup> <sup>777</sup> <sup>778</sup> <sup>779</sup> <sup>780</sup> <sup>781</sup> <sup>782</sup> <sup>783</sup> <sup>784</sup> <sup>785</sup> <sup>786</sup> <sup>787</sup> <sup>788</sup> <sup>789</sup> <sup>790</sup> <sup>791</sup> <sup>792</sup> <sup>793</sup> <sup>794</sup> <sup>795</sup> <sup>796</sup> <sup>797</sup> <sup>798</sup> <sup>799</sup> <sup>800</sup> <sup>801</sup> <sup>802</sup> <sup>803</sup> <sup>804</sup> <sup>805</sup> <sup>806</sup> <sup>807</sup> <sup>808</sup> <sup>809</sup> <sup>810</sup> <sup>811</sup> <sup>812</sup> <sup>813</sup> <sup>814</sup> <sup>815</sup> <sup>816</sup> <sup>817</sup> <sup>818</sup> <sup>819</sup> <sup>820</sup> <sup>821</sup> <sup>822</sup> <sup>823</sup> <sup>824</sup> <sup>825</sup> <sup>826</sup> <sup>827</sup> <sup>828</sup> <sup>829</sup> <sup>830</sup> <sup>831</sup> <sup>832</sup> <sup>833</sup> <sup>834</sup> <sup>835</sup> <sup>836</sup> <sup>837</sup> <sup>838</sup> <sup>839</sup> <sup>840</sup> <sup>841</sup> <sup>842</sup> <sup>843</sup> <sup>844</sup> <sup>845</sup> <sup>846</sup> <sup>847</sup> <sup>848</sup> <sup>849</sup> <sup>850</sup> <sup>851</sup> <sup>852</sup> <sup>853</sup> <sup>854</sup> <sup>855</sup> <sup>856</sup> <sup>857</sup> <sup>858</sup> <sup>859</sup> <sup>860</sup> <sup>861</sup> <sup>862</sup> <sup>863</sup> <sup>864</sup> <sup>865</sup> <sup>866</sup> <sup>867</sup> <sup>868</sup> <sup>869</sup> <sup>870</sup> <sup>871</sup> <sup>872</sup> <sup>873</sup> <sup>874</sup> <sup>875</sup> <sup>876</sup> <sup>877</sup> <sup>878</sup> <sup>879</sup> <sup>880</sup> <sup>881</sup> <sup>882</sup> <sup>883</sup> <sup>884</sup> <sup>885</sup> <sup>886</sup> <sup>887</sup> <sup>888</sup> <sup>889</sup> <sup>890</sup> <sup>891</sup> <sup>892</sup> <sup>893</sup> <sup>894</sup> <sup>895</sup> <sup>896</sup> <sup>897</sup> <sup>898</sup> <sup>899</sup> <sup>900</sup> <sup>901</sup> <sup>902</sup> <sup>903</sup> <sup>904</sup> <sup>905</sup> <sup>906</sup> <sup>907</sup> <sup>908</sup> <sup>909</sup> <sup>910</sup> <sup>911</sup> <sup>912</sup> <sup>913</sup> <sup>914</sup> <sup>915</sup> <sup>916</sup> <sup>917</sup> <sup>918</sup> <sup>919</sup> <sup>920</sup> <sup>921</sup> <sup>922</sup> <sup>923</sup> <sup>924</sup> <sup>925</sup> <sup>926</sup> <sup>927</sup> <sup>928</sup> <sup>929</sup> <sup>930</sup> <sup>931</sup> <sup>932</sup> <sup>933</sup> <sup>934</sup> <sup>935</sup> <sup>936</sup> <sup>937</sup> <sup>938</sup> <sup>939</sup> <sup>940</sup> <sup>941</sup> <sup>942</sup> <sup>943</sup> <sup>944</sup> <sup>945</sup> <sup>946</sup> <sup>947</sup> <sup>948</sup> <sup>949</sup> <sup>950</sup> <sup>951</sup> <sup>952</sup> <sup>953</sup> <sup>954</sup> <sup>955</sup> <sup>956</sup> <sup>957</sup> <sup>958</sup> <sup>959</sup> <sup>960</sup> <sup>961</sup> <sup>962</sup> <sup>963</sup> <sup>964</sup> <sup>965</sup> <sup>966</sup> <sup>967</sup> <sup>968</sup> <sup>969</sup> <sup>970</sup> <sup>971</sup> <sup>972</sup> <sup>973</sup> <sup>974</sup> <sup>975</sup> <sup>976</sup> <sup>977</sup> <sup>978</sup> <sup>979</sup> <sup>980</sup> <sup>981</sup> <sup>982</sup> <sup>983</sup> <sup>984</sup> <sup>985</sup> <sup>986</sup> <sup>987</sup> <sup>988</sup> <sup>989</sup> <sup>990</sup> <sup>991</sup> <sup>992</sup> <sup>993</sup> <sup>994</sup> <sup>995</sup> <sup>996</sup> <sup>997</sup> <sup>998</sup> <sup>999</sup> <sup>1000</sup> <sup>1001</sup> <sup>1002</sup> <sup>1003</sup> <sup>1004</sup> <sup>1005</sup> <sup>1006</sup> <sup>1007</sup> <sup>1008</sup> <sup>1009</sup> <sup>1010</sup> <sup>1011</sup> <sup>1012</sup> <sup>1013</sup> <sup>1014</sup> <sup>1015</sup> <sup>1016</sup> <sup>1017</sup> <sup>1018</sup> <sup>1019</sup> <sup>1020</sup> <sup>1021</sup> <sup>1022</sup> <sup>1023</sup> <sup>1024</sup> <sup>1025</sup> <sup>1026</sup> <sup>1027</sup> <sup>1028</sup> <sup>1029</sup> <sup>1030</sup> <sup>1031</sup> <sup>1032</sup> <sup>1033</sup> <sup>1034</sup> <sup>1035</sup> <sup>1036</sup> <sup>1037</sup> <sup>1038</sup> <sup>1039</sup> <sup>1040</sup> <sup>1041</sup> <sup>1042</sup> <sup>1043</sup> <sup>1044</sup> <sup>1045</sup> <sup>1046</sup> <sup>1047</sup> <sup>1048</sup> <sup>1049</sup> <sup>1050</sup> <sup>1051</sup> <sup>1052</sup> <sup>1053</sup> <sup>1054</sup> <sup>1055</sup> <sup>1056</sup> <sup>1057</sup> <sup>1058</sup> <sup>1059</sup> <sup>1060</sup> <sup>1061</sup> <sup>1062</sup> <sup>1063</sup> <sup>1064</sup> <sup>1065</sup> <sup>1066</sup> <sup>1067</sup> <sup>1068</sup> <sup>1069</sup> <sup>1070</sup> <sup>1071</sup> <sup>1072</sup> <sup>1073</sup> <sup>1074</sup> <sup>1075</sup> <sup>1076</sup> <sup>1077</sup> <sup>1078</sup> <sup>1079</sup> <sup>1080</sup> <sup>1081</sup> <sup>1082</sup> <sup>1083</sup> <sup>1084</sup> <sup>1085</sup> <sup>1086</sup> <sup>1087</sup> <sup>1088</sup> <sup>1089</sup> <sup>1090</sup> <sup>1091</sup> <sup>1092</sup> <sup>1093</sup> <sup>1094</sup> <sup>1095</sup> <sup>1096</sup> <sup>1097</sup> <sup>1098</sup> <sup>1099</sup> <sup>1100</sup> <sup>1101</sup> <sup>1102</sup> <sup>1103</sup> <sup>1104</sup> <sup>1105</sup> <sup>1106</sup> <sup>1107</sup> <sup>1108</sup> <sup>1109</sup> <sup>1110</sup> <sup>1111</sup> <sup>1112</sup> <sup>1113</sup> <sup>1114</sup> <sup>1115</sup> <sup>1116</sup> <sup>1117</sup> <sup>1118</sup> <sup>1119</sup> <sup>1120</sup> <sup>1121</sup> <sup>1122</sup> <sup>1123</sup> <sup>1124</sup> <sup>1125</sup> <sup>1126</sup> <sup>1127</sup> <sup>1128</sup> <sup>1129</sup> <sup>1130</sup> <sup>1131</sup> <sup>1132</sup> <sup>1133</sup> <sup>1134</sup> <sup>1135</sup> <sup>1136</sup> <sup>1137</sup> <sup>1138</sup> <sup>1139</sup> <sup>1140</sup> <sup>1141</sup> <sup>1142</sup> <sup>1143</sup> <sup>1144</sup> <sup>1145</sup> <sup>1146</sup> <sup>1147</sup> <sup>1148</sup> <sup>1149</sup> <sup>1150</sup> <sup>1151</sup> <sup>1152</sup> <sup>1153</sup> <sup>1154</sup> <sup>1155</sup> <sup>1156</sup> <sup>1157</sup> <sup>1158</sup> <sup>1159</sup> <sup>1160</sup> <sup>1161</sup> <sup>1162</sup> <sup>1163</sup> <sup>1164</sup> <sup>1165</sup> <sup>1166</sup> <sup>1167</sup> <sup>1168</sup> <sup>1169</sup> <sup>1170</sup> <sup>1171</sup> <sup>1172</sup> <sup>1173</sup> <sup>1174</sup> <sup>1175</sup> <sup>1176</sup> <sup>1177</sup> <sup>1178</sup> <sup>1179</sup> <sup>1180</sup> <sup>1181</sup> <sup>1182</sup> <sup>1183</sup> <sup>1184</sup> <sup>1185</sup> <sup>1186</sup> <sup>1187</sup> <sup>1188</sup> <sup>1189</sup> <sup>1190</sup> <sup>1191</sup> <sup>1192</sup> <sup>1193</sup> <sup>1194</sup> <sup>1195</sup> <sup>1196</sup> <sup>1197</sup> <sup>1198</sup> <sup>1199</sup> <sup>1200</sup> <sup>1201</sup> <sup>1202</sup> <sup>1203</sup> <sup>1204</sup> <sup>1205</sup> <sup>1206</sup> <sup>1207</sup> <sup>1208</sup> <sup>1209</sup> <sup>1210</sup> <sup>1211</sup> <sup>1212</sup> <sup>1213</sup> <sup>1214</sup> <sup>1215</sup> <sup>1216</sup> <sup>1217</sup> <sup>1218</sup> <sup>1219</sup> <sup>1220</sup> <sup>1221</sup> <sup>1222</sup> <sup>1223</sup> <sup>1224</sup> <sup>1225</sup> <sup>1226</sup> <sup>1227</sup> <sup>1228</sup> <sup>1229</sup> <sup>1230</sup> <sup>1231</sup> <sup>1232</sup> <sup>1233</sup> <sup>1234</sup> <sup>1235</sup> <sup>1236</sup> <sup>1237</sup> <sup>1238</sup> <sup>1239</sup> <sup>1240</sup> <sup>1241</sup> <sup>1242</sup> <sup>1243</sup> <sup>1244</sup> <sup>1245</sup> <sup>1246</sup> <sup>1247</sup> <sup>1248</sup> <sup>1249</sup> <sup>1250</sup> <sup>1251</sup> <sup>1252</sup> <sup>1253</sup> <sup>1254</sup> <sup>1255</sup> <sup>1256</sup> <sup>1257</sup> <sup>1258</sup> <sup>1259</sup> <sup>1260</sup> <sup>1261</sup> <sup>1262</sup> <sup>1263</sup> <sup>1264</sup> <sup>1265</sup> <sup>1266</sup> <sup>1267</sup> <sup>1268</sup> <sup>1269</sup> <sup>1270</sup> <sup>1271</sup> <sup>1272</sup> <sup>1273</sup> <sup>1274</sup> <sup>1275</sup> <sup>1276</sup> <sup>1277</sup> <sup>1278</sup> <sup>1279</sup> <sup>1280</sup> <sup>1281</sup> <sup>1282</sup> <sup>1283</sup> <sup>1284</sup> <sup>1285</sup> <sup>1286</sup> <sup>1287</sup> <sup>1288</sup> <sup>12</sup>

の説明は八・三六(一六・三六、七参照)に従う方がよく、

一般のインド語学者にも、貴重な示唆に富んでくる。

(東京大學教授)

## 第二十三回國際東洋學者會議

### International Congress of Orientalists

of death' の maranāya を挙げ、六・一〇は中性なる女性

(\*maranā) の移轉例と見なしてよし (辭書 maranā の項

参照)。孤立例か心緒論を得たんだけ困難であるが、法華經に數回見えた bodhāya...lābhinah(七四四、辭書 1 bodha の項参照)と同じく、上記の maranāya も、屬格の機能をも(與格と解しては、甚だしく不都合である)か。その場合 V. 1. maranāye は、女性の共通斜格形 -āya: -āye (九・一) 七以下)の並存に誘發されたものと説明される。

最後に讀本は、佛教梵語の初學者の手写を示す。また演習用の教科書として編まれたもの、Mv, Lalitav., Sad-dharma. のほか、Mulasarvastivāda Vinaya, Mahāparinirvāṇas., Uḍanavarga などの資料をとり、文典によくて解明された原則によつて訂正された原文に脚註を添え、主著への參照によつて理解を助けてくる。單に入門書として適切であるばかりでなく、今後佛教梵語の原典が、如何なる方針によつて校訂されるべきであるか、またその場合に如何なる様相を呈するかを示す範例として、在來の出版本と比較する時、

第二十三回國際東洋學者會議の通知を廣く日本の東洋學者に知らせて欲しいと要望がありました。

イスタンブールで開催された第一十一回國際東洋學者會議の決議にとづいて、英國王立アジア協會 (The Royal Asiatic Society of Great Britain) は、第二十三回會議を一九五四年八月二十一日より二十八日まで、ケンブリッジでの宿泊設備は限られておりますが、會議の出席者はケンブリッジ大學の學生宿舍に宿泊することも出来ます。そのためには、参加者の大約の人数を出来る限り速かに知りたいと存じます。参加希望の方々は準備委員會まで、その旨お知らせ下さい。會議には東洋學者はどうなたでも御自由に参加出来ます。準備委員會には参加東洋學者のすべての方々の氏名・住處のリストが完全に揃つてはおりませんから、たとい個々に招待状を受けとられなくとも、参加希望の方は直ちに左記をお知らせ下さい。

(宛名) The 23rd International Congress of Orientalists,

Organising Committee,

QUEENS COLLEGE, CAMBRIDGE, ENGLAND.

會議に關しての詳細な御案内は参加の意志を準備委員會にお知らせ下さいた方面に直ちにお送り致します。大學・圖書館・學會等の公共機關又は研究所の代表者として招請状を必要とされる方は、出来る限り速かに準備委員會まで、その所屬公機関又は研究所の宛名をお知らせ下さい。